

第4回 生駒市総合計画審議会 全体会

1 日 時 平成25年9月30日（月）午前9：30～

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 出席者

（委員） 久会長代理、加藤委員、大原委員、梶井委員、楠下委員、永野委員、森岡委員、井口委員、今任委員、大野委員、竹内委員、生川委員、福島委員
（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課長補佐、岡村企画係長 加納企画係員

4 欠席者 中川会長、室井委員

5 議事内容

（1）総合計画のあり方について（諮問事項1）

【事務局】 （資料1，2，3について説明）

【久会長代理】 御質問、御意見ございますでしょうか。

【加藤委員】 資料2の文言について。（1）-1基本構想の位置づけのところと計画の役割と位置づけのところに普通地方公共団体が目指す構想という表記がある。この普通地方公共団体というのが、分かりにくいのではないかと思うので削除してはどうか。

【久会長代理】 通常、一般的に地方公共団体というときは、普通地方公共団体を皆さんイメージするが、事務局とすれば、より明確に総合計画の対象範囲を絞るということで、普通地方公共団体という地方自治法上の使い方をしていると思う。普段は、普通地方公共団体の意味合いで地方公共団体と使っていると思うが。

【井口委員】 普通があれば、普通でないのもあるのか。

【久会長代理】 特別地方公共団体。

【永野委員】 これを見たときに普通って何かなと思った。どういう意味なんだろうと。

【事務局】 そこは専門的などこになるので、市民の方に分かりやすい総合計画ということを目指しているので「普通」は取って、生駒市を入れたい。そうすれば専門的に見て

も普通地方公共団体というふうにとれるので「普通」は取ってしまって、地方公共団体としての生駒市が目指す構想という形にさせていただきたい。

【楠下委員】 普通、構想というのは、例えば中長期的な、10年以上とかそういう場合に使うと思うが、10年以上とか何か、長期的なものとか、そういうイメージの言葉にしてはどうか。(2)－1の計画期間についてのところに、計画期間を従来よりも長期に設定する(10年以上)などという言葉があるが、こういう表現の方が分かりやすいと思う。

【久会長代理】 事務局の提案でよろしいか。明確になっていないという突っ込みがあるかも知れないが、そのときはちゃんと説明していただいて、審議会でこういう御意見が出たので、あえて「普通」を取ったということで、いいと思う。

【事務局】 では、括弧書きのところは、普通地方公共団体の「普通」を取らせていただいて、(地方公共団体が目指すべき構想)という形にさせていただいてよろしいか。

【久会長代理】 はい。

【事務局】 楠下委員がおっしゃった(2)－1については、この基本構想と基本計画に対して計画期間というのが定まってくるので、今のところ現在の第5次総合計画の基本構想は平成30年度までとなっている。前回までの会議の内容を考えると、次回第6次総合計画の策定に向けては10年にこだわらず、10年以上で御議論いただくような話になっていたと思う。今回の審議会では、まだ基本構想の計画期間を決めるという会議にはなっていないが、次回に向けて、いろいろ御意見をいただきたい。

【久会長代理】 では、大きな方向性を示すものと、それを受けた具体的な施策を示すものという、二段構えになっているということだけを今回は明記をしておくということでもよろしいか。

(異議なし)

【森岡委員】 資料2基本構想と基本計画の役割の括弧書きに、市長改選の影響が少ない計画、影響がある計画とあるが、これは削除してもいいと思う。基本構想というのは基本計画の上に、もっと長期的な視野に立って、市民やいろんな人たちの希望とか生駒市のあり方について、大きな姿を描くものだという構想なので、そういう表現から見れば、このような括弧書きで分けるということについては、基本構想と基本計画という考え方と矛盾すると思う。基本構想というのは、10年あるいは長期的な、どなたが市長になろうと基本的にはこういう形で進んでいこうというものであり、こういう考え方に基づいて、時々市長が変わると、当然その中で具体的に重点施策も変わってくるし、優先施策も変わっ

てくるしということもあると。そこが変わってくるんだというように思う。だから、意味は分かるが、この括弧書きを入れるということが、本来並列ではない。基本構想と基本計画が並列で、その並列のものを分けるという誤解をされやすいというように思う。

【久会長代理】 これは明記しておいた方が良くと考える。今までは市長が変わると、基本構想そのものを変えるというのが多かったが、これからはそうしないという方向にある。基本構想というのはみんなで決めた10年後の指し示すべき方向なのだから、市長がかわろうとかわるまいと、それは変えてはいけないというようなことを明記するために、あえて括弧書きをしている。くぎを刺すと言うか、そこがなくなってしまうときに、そういう思いがきちんと伝わるかどうかというところの一抹の不安があったということ。

【加藤委員】 では、その基本構想のところだけは、もうこれは変わらないんだというふうなことで括弧書きを残して、基本計画はあえて書かなくてもいいと思う。

【久会長代理】 そうですね。市長が変わったら基本構想を変えないといけないようなニュアンスになる。この役割の中に入れてしまうから目立ってしまうと思うので、説明文の中に書くという方法もある。基本構想部分というのは長期の指し示す方向なので、市長の改選によっては影響を受けないものとするか影響が少ないものとするというような形で、説明書きの方に書くという方法もある。

【大野委員】 もう既にこれはそれに近いようなことを述べているから、基本計画の方の括弧に書いてあることはあえて書く必要はないんじゃないかなと思う。

【久会長代理】 でも、今までもこういう書き方をしていたけれども、市長が変わると変えられた。市民参加で一緒に作ったにもかかわらず、市長が変わると変えられるということが他市ではまだ起こっているので、そういう意味では、やはり市長との関係ということをどこかで書いておいた方がいいかなという気がする。では、折衷案で、説明文の方へ回すということで。文言は私と会長の方に御一任いただきたい。

【福島委員】 資料3(1)-2④の説明文が分かりづらい。主語が何なのかが分かりづらい。もう一点は、次のページの図の真ん中のところで、基本構想と基本計画が分野別計画に連動していると図で表現されているが、その文言の意味合いとこの図はマッチしないという気がする。

【事務局】 では文章を整えて、直に連動しているという表現の主語である「個別、分野別の計画」を整理したい。

【福島委員】 図については、まだ分かりづらいなという気がした。直に連動するんだ

から、つけるのであれば基本計画の下になるかなと思った。今日示された図のように、分散するような形じゃなくて。ただ、最下層につけてしまうと、3層構造みたいに見えてしまう。あくまでも分野別計画というのは独立したものだから。ただし、それが基本計画と直に連動しているが。

【久会長代理】 この問題は実は難しいところがあって、分野別計画、分野別のいわゆるマスタープランがいろいろあるが、国とか県の方針を受けないといけない部分というのもある。だから、総合計画だけに縛られているわけではなくて、国、県の方針に縛られている部分もあるので、必ずしも基本計画の下にすっぽりおさまるとは限らない。そのあたり、事務局も悩んだ結果がこういうスタイルではないかなというふうに思う。ただ、それぞれの分野別計画の一番最初の方に書いてあるビジョン的な部分が、この基本計画とぴったり整合しているかどうかということと言うと、本当にストレートにチェックしながら作っているのかということところが疑問に感じる。それを今回は、やはりそれぞれの分野でマスタープランを作るのならば、それと基本計画も直接ストレートに結びつくような、そんな方がいいというような意味合いになる。いろんなマスタープランにも、キャッチフレーズとかあるべきまちの姿が書いてあるが、それと基本計画のそのあるべきまちの姿が、言葉が違う、内容が違うというので本当にいいのかどうかという、そこをもっとストレートに連動させたらどうかという提案だと思う。そこをどういう形で図にあらわしたらいいかというところの話になる。

【福島委員】 考え方が、県とかほかの指針とかも反映したものでなければいけないというのはちょっと難しい。ただ、この図を見ると、何となくその前の文言の直に連動する、位置づけるということが、私のイメージに合わない。

【森岡委員】 例えばハートフルプランでも、前期計画とか後期計画と分けており、総合計画年度がずれたり策定年度がずれたりとかいうことが出ていると思う。その辺の年度の問題をどう調整するかという課題が1つある。また、行政側のサイドとして、きちっと総合計画とその分野別計画を位置づけて各種委員会に提起をしていくということが大事なのだが、そこが無差別にそれぞれの分野別委員会で論議されていたりという印象を受ける。総合計画で決まっている中身があるにもかかわらず、それとは関係無く論議が進むことがある。そういう意味での調整というか、表現の規制をしなければならないと思う。総合計画が上位に位置されているのに、違う表現を分野別で使うというのは、これはおかしい話だ。それともう1つは、各種審議会でこういう分野別の審議をするときに、余りにも論議

が違うところへ流れているような、そういうときもあるような気がした。そういう意味では、明確にその位置づけと、論議の進め方をどうしていくかということを決めておくことが大事だと考える。この資料の書き方で言うと、非常に分かりにくい。もう少し、より具体的、今言うような分野別の策定期を合わすだとか、あるいは表現の問題については、きちっと、そういう具体的にやっぱり表現をすべきことではないかなというように思う。

【久会長代理】 おっしゃるとおりだが、そのあたりはかなりテクニカルな問題もあるので、まだ少なくとも4年、次の総合計画の見直しまでであるので、そこはもう少し時間をかけて議論させていただければと思う。今回は余りストレートに連動していなかった部分もあるので、今回はそのあたりを明確に連動させる方向で進めるというような、方向性だけ示させていただければありがたい。

それと、これは後の祭りのなところがあるが、事務局とこの前話をしていたときには、もう基本計画そのものも要らないのではという話もあった。分野別計画が基本計画に相当するということもあるので、基本構想にぶら下がって分野別計画があるという計画もあって、さっき森岡委員がおっしゃるように、ただ、分野別計画をそれぞれの策定委員会にお任せする、あるいはそれぞれの審議会にお任せするのではなく、総合計画審議会も目を通して、基本構想との整合性をチェックするというような、そういう新しいやり方もあったのになという話も出た。ただ、今は自治基本条例で基本計画を作る、それも議決事項にするというように明言されているので、そことその分野別計画をどう連動するかということを手順として考えていかないといけないということになると思う。

【福島委員】 基本計画と分野別計画とは、同じ次元であるのがちょっとずれている関係だと思うので、例えば実線で四角に囲むんじゃなくて、表現の問題だが、何か太い破線で、違う性格が加味された計画なんだよというのが表現できればいいんじゃないかと考える。

【久会長代理】 微妙にぼかしているというのが事務局の思いなのか。なかなか答えも出なさそうなので、また福島委員から何かいい案が思いついたら事務局にお届けをいただく。それを受けて、また私と会長の方で最終的に調整させていただくということによろしいか。

(異議なし)

幾つか御指摘いただいたが、おおむね方向性や方針のレベルでは共有ができているのかと思うので、また今日いただいた御意見を反映する形で修正をさせていただいて、会長と

私の方で御一任いただいて、諮問事項に対する答申として市長に提出するということよろしいか。

(異議なし)

(2) 総合計画の進行管理について(諮問事項3)

【事務局】 (資料4について説明)

【久会長代理】 何か御質問、御意見ございますでしょうか。

【久会長代理】 御意見等ないので、この修正を加えて最終的には諮問事項3に対する答申とさせていただきます。

(3) 後期基本計画の策定について(諮問事項2)

【事務局】 (資料5～8について説明)

【久会長代理】 この資料7, 8サンプルのさまざまな分野の具体的な内容は、また時間をかけて議論をさせていただきたい。各担当課へ照会し作成いただいた後に、内容を足していただくというようにしたい。今日はこのフォーマットの最終確認をお願いしたい。これが決まり次第、それぞれの課に照会して作成いただく作業が始まる。

【梶井委員】 行政の4年間の主な取り組みの番号表示について。もう少し分かりやすくするために、①の1とか①の2とかいう表現にされた方が良いと思う。

【事務局】 できるだけ市民の方に分かっていたきたいという思いがあるので、そのように変更させていただきたい。

【井口委員】 4年後のまちの表現について。できるだけ市民に分かりやすくするために、平易な文章にした方が良い。

【久会長代理】 フォーマットというよりも、各担当課への照会時に、書き方のマニュアルの中にそういうお願いをしておく、特に小分野No. 144というのはまさしく内部の問題なので、余計に書き方がかたくなってしまうのかも知れない。さらに、全体を通すという意味では、No. 222学校教育の4年間の主な取組が多すぎる。この多いということは、くくり方そのものを分けないといけないのか、あるいはもっと主な取組をコンパクトにできるのか、どちらかと思う。このようにたくさん出てくるところというのは、重点的にちょっと見直していただいて、くくり方を分けるなら分ける、主な取組の整理ができるなら整理をしてもらおう。どっちかで、余りここにずらっと並ぶというのは、ちょっと体裁とし

てもいかなものかなというような気がする。これも、進めていくときに少し原課と調整をしていただきたいと思う。

【加藤委員】　　たくさんにすると見づらい。最低何個ぐらいみたいな目安を立ててもらって、見やすさを考えていただく方が良い。あと、質問させていただきたいのは、この資料6のところの基本計画の改正する項目で、市民1人でできること、市民2人以上でできることとあるが、市民が分かりやすい項目かどうか疑問に思う。

【竹内委員】　　だから、そういう意味では、その市民で参画するという、そういう意識向上のためには、ここから自分の生活を変えていくという、そういう意識を持たれるには非常にいい項目だと思う。

【梶井委員】　　その1人という言葉、個人とかいう言葉に変えたらどうか。

【事務局】　　市民個人でできること。

【梶井委員】　　個人個人、個々にできること。

【加藤委員】　　「市民」としたら、何か自分のことじゃないと思ってしまう。

【久会長代理】　　2人以上はどうか。団体組織としたら長くなる。

【楠下委員】　　個人にするんだったらグループはどうか。

【竹内委員】　　これは市民として、成熟させていくという意識を持たせるためにはという意図があるのか。

【久会長代理】　　成熟というよりも、市民お一人お一人の動機づけ、意識づけということ。全ての項目にわたってできることはありますよというメッセージが、その市民1人の方、個人ということだと思う。地域という言葉をもう1回復活させたらどうかという話もあったが、やっぱり2人以上が組織とかグループを組まないといけないことがあるので、そういうことを認識すると、グループとか自治会とかの意味合いというものがより明確になって、だから自治会で一緒にやらないといけないんですよというような連動も図れるのかなというように思う。

【森岡委員】　　先ほど、行政の4年間の主な取り組みということで、学校教育についての項目が多いという指摘がされていたが、羅列的になっている。この4年間どういう重点的なものを挙げていくんだ、この基本計画の行政の4年間の主な取り組みで、やることはあるけれども、その中で特に重点的なものを挙げるんだということを、やっぱりこの考え方の中に文章表現として上げておく方が分かりやすいと考える。そうでないと、結局、自分のところにある全ての仕事を全部挙げてしまうと。実際は4年間何もしなかったとかい

うことも起こり得るので、やっぱり4年間重点的にということ、どこかで表現がうたわれてもいいと思う。

【久会長代理】 実はいろんな市役所でお手伝いをさせていただいているが、専門職が多い分野ほど、こうやって羅列になる傾向にある。そういう意味では、森岡委員がおっしゃったように、やっぱりメリハリをこのレベルでつけていただくというのが重要である。でも、その場合にはちゃんとそれぞれの部署で協議して、折り合いをつけていただきたい。

それともう1つ、特にこれは各課への照会時にお願いしたいが、書いていないからやらないではないわけで、先ほど森岡委員も御指摘いただいたように、主な取り組みなので本当に重要な主な取り組みだけを抜き出させていただくというように思っていたかないと、書いていないとできないんだという思いになればなるほどここに全部挙がってくるので、そこをより強調して御説明いただきたい。

【生川委員】 やっぱりこの羅列になるということは、縦割り行政という、大局的に見て、そういうのがまだ直っていないからこうなるんじゃないかなと思う。同じ学校教育の分野でも、教育指導課とか生涯学習課とか、そういうもうちょっと横の関係を作っていけば、こういうふうにはならないんじゃないかなと思う。

【久会長代理】 おっしゃるとおりで、どうしてここの部署がこれだけたくさん出ているかということ、まず気づいていただいて、それをどう少なくできるかということを考えていただくことによって、御指摘のあるように、もっと連動させないといけないというようになるのか、メリハリをつけるために落としていくという話になるのか、そのあたりはそれぞれの部署にお任せするということになると思う。

私の大学でもパンフレットを作るときに先生方の写真が載るが、みんな同じ大きさになる。本当はどなたかの先生をぱんと大きく出した方がインパクトがあるが、公平ではないという声もあり、みんな同じ大きさになる。それが典型的な話で、やっぱり横並びが強いほど、たくさんここに挙がってくるということになる。

先ほどの市民2人以上というのは、タイトルだけの問題なので、また変えてもらいながら考えることもできないことはないが。

【今任委員】 日常的に市民という表現は余りしていないので、あえてこういう資料には、市民1人、市民2人以上という表現はいいかと思う。やっぱり市民だという意識を持てるという意味で、あえてこういうふうに書いてあるのもいいかなと思う。

【楠下委員】 意識づけのためにはいいかも知れない。

【久会長代理】 前回もお話しさせていただいた海士町は、1人でできること、10人でできること、100人でできること、1,000人でできることという4段階になっている。まず、1人は誰でもできる。10人だったらちょっと頑張ったらできる。100人はやっぱり仲間がいけないといけないというような、段階的に書かれているが、そこまで細かくするとまた難しくなるので、とりあえずは自分で動けるか、仲間が必要かという2段階にしていると思うが、それがうまくインパクトのある表現で伝わるような、そんなタイトルをいただければと思う。

【井口委員】 例えば、呼びかけ的にあなた1人でできることとか、あるいはみんなでできることとかというような表現の仕方もあると思う。表現方法なので、自分がやらないといけないということを分かればいいと思う。

【事務局】 今、市民1人でできること、あるいは2人以上というのもいいじゃないかという御意見もいただいているので、表現としてこういう形で一旦まとめて、その後変更することも可能なのでとりあえずこれでまとめさせていただきたい。

【久会長代理】 では、内容がより分かるということで、このまま置かせていただいて、最終的にまとめるときにもう一度、ここのタイトルは何がいいということで議論させていただきたい。

【今任委員】 このサンプルを見ていると、行政の4年間の主な取り組みと、具体的な事業というのは関連している。大体同じような数ぐらいつつ出ているが、この4年間の取り組みのポイントを絞って主立ったところを列記したときに、具体的な事業の方では、実際にやる場所をもっと細かく入れていただきたい。正確に分けた方が、力点の置き方がどうなっているかというのが分かりやすいと思った。

それともう1つ、関連データについて。このデータもたくさんの中から1つ選んでここに入れているが、具体的な事業というのが幾つかあるわけで、メニューは1つにしておいて、あとは以前出ていた資料編というので、小分野ごとの資料編ということで添付して、分かりやすくしてもらったらと思う。

【久会長代理】 ということでよろしいか。資料、1つは関連データは1つにせず、それぞれの重要なものは後ろに資料として載せるという、そういう御提案だった。

【事務局】 今の御発言は、この右側のページが資料になっているが、これと別にまた巻末に資料をつけるということか。

【今任委員】 データの方だけを巻末につけるということ。資料編が後についていれば、

進捗度合いが分かりやすいと思う。

【久会長代理】 これは考え方次第だ。何のためにここにデータを載せているのかという趣旨をもう一度確認しておいた方がいいと思うが、事務局の思いを聞かせていただきたい。これは1つに絞る意味合いなのか。

【事務局】 今は体裁を重視し過ぎている部分があると思うので、本来から言えば、例えば指標に掲げているようなものについては、やはり従前からの数値というのを追いかけていく、それで、その指標自体の今後の5年後とかいう数値がどうなのかというのを見ていただくという必要もあろうかと思うので、この関連データを基本計画の右側の資料のところに載せるのか、あるいはここに載せずに、別個に関連データという形で巻末に資料だけずらっと載せていくのかというのは、検討させていただきたいと思う。ただ、何らかの形では、1つの関連データしかないということではなく、他にもお示しはさせていただきたいというのは思っているので、お話を聞いていたら、ここに載せずに巻末にずらっと載せてもいいのかなとは思った。指標に関連して関連データが必要となれば、この見開きページではスペースが厳しいので、巻末に掲載したい。

【大野委員】 最重要項目のデータを1つだけ抜粋して載せて、あとは巻末で済ませようということをごどこかで工夫していただけたらと思う。

【久会長代理】 これはなかなか難しい。なぜかというのと、その4年後のまちを今、2つないし3つに絞っており、それに対して指標をちゃんと関連づけて、その1個だけに関連データとして抜き出している。最重要項目を1つに絞りきるのは非常に難しく、かといって、ここには2つ、3つを載せるようなスペースがないので、だったら後ろにしっかりと、それぞれの指標の全ての経年変化を載せておいた方がいいというのが事務局からの提案。

【森岡委員】 しかし、関連データというのは、今後4年の間で施策が完了したり中止になる場合がある。そういう意味で言うと、本来なら差し替えが必要になるが、私は今の事務局案のとおり関連データは巻末にまとめた方がいいと思う。

【久会長代理】 これ、検証を私もずっとさせていただいてすごく気になっているが、指標という分かりやすいものが出てくれば出てくるほど、指標を追っかけてしまうことになる。でも、本来追っかけないといけないのは、この4年後のまちが達成できているかどうかということであり、その代表指標として置かれているだけの話であって、やはりそこを参考にしつつも、森岡委員がおっしゃるように全ての施策を眺めながら、4年後のまち

がどのように実現に近づいているのかという評価をするというのが本来だと思う。もしやっている途中で、別の指標の方が分かりやすい、別の施策の方が重点施策じゃないのかということに気がつけば、それは随時やはり御提案をさせてもらって、メリハリをつけていくというか、1つの参考意見として出させていただくというのは重要なことではないかなと思う。

【今任委員】 表現的には分かるが、じゃ、どのくらいどうなるのかというのを具体的に見る場合には、やっぱり指標、データがないと、なかなか分からないと思うが。

【久会長代理】 今回議論していただきたいのは、このシートを作る、フォーマットを作っているわけなので、ここに1個がいいのか、ない方がいいのかという議論が本来の議論なので、あと、そのデータをつけていくというのは随時できるし、差しかえも評価の中でやっていけばいいので、今回ここに、このA3見開きでこのデータがある意味というのがどうなのかということで、どういう形で載せるのか、載せないのかという議論を尽くさせていただければと思う。ちょっとでも見ていただきたい動機づけにということで前は載せた。注目をしてほしいというようなことで、ビジュアルということ。ざっくり言えば、この関連データがなくなると、ほぼ字づらだけになるので、おもしろくないような印象になるが、ここにデータがあるということで、印象をやわらかくするという意味合いでは、データがあった方がいいのかなと思う。何かその意味合いというよりも、印象的なことでデータがあった方が和らぐよというような考え方もあるかと思う。

【生川委員】 やっぱり年度で分かりやすいように比較するには、折れ線とかそういう、棒グラフみたいなのがあった方が分かりやすいんじゃないかなと思う。

【久会長代理】 どうしてそういう発言をさせてもらっているかということ、そういうような分かりやすさを出すために1つでもグラフがあった方がいいよということであれば、どうしてここにデータが載せられているのかということは乗り越えられるからである。1個だけ載せておけばやわらかさが出るし、2つ目、3つ目の指標はちゃんと後ろに載っていますよという、そういうような言い方、説明の仕方もあるのではないかと思う。

【楠下委員】 これ、ページの左側が目標で、具体的な手段は4年間の主な取り組みの中に入っており、その結果、指標がこう変わりますよと。それが一目で見えるという意味で、この指標は非常に重要だと思う。指標に平成30年の目標が載っているが、4年間の主な取り組みの中に、今後4年間というかなり長期間なので、新たな取り組みとかが当然入ってくるはずだ。そういう目から見ると、4年間の主な取り組みの中が、一般的な表

現で、数値とか手段を分かりやすい方がいいかなと思う。

【井口委員】 これを見てみたら、例えば学校教育なんかは、あるいは職員・行政組織もそうで、背景というか環境というか、背景データの部分を載せている。あとは実績といたものを載せているので、ここに対して何が一番言いたいのかというものを載せるという意見があるし、あるいはそのデータ、実績的なものを載せるべきだということもあるし、環境、背景的なものを載せるということもある。何をのせるかの方針を出しておいた方がいいと思う。

【久会長代理】 関連データは今のところ、この指標のうちの1つを抜き出している。

【事務局】 指標のどれか1つを掲載、それを今までこの4年間進行管理してきたので、その指標がグラフ化されている方がいいかと思った。その実績を載せるという意味で。

【久会長代理】 先ほどの御意見を反映しようと思えば、指標のところそのものを見直さないといけないという話になるのかなと思った。

【井口委員】 生徒数が減ったり、職員数は多少あってもいいけども、それは背景であって施策ではない、その結果ではない。

【加藤委員】 だから、どこに何を関連データとして載せるかというのは、4年後のまちとうまく連動した中でやっていかないと、この対象児童、この教育なんかは児童数だけになっていて、児童数の変更だから対象人数という基本的な属性の中に入っている分となっている。ただ、これについて、これだけ人数がいるから頑張ろうねみたいな、それはそういう意味でのデータなのか、あるいは男女共同参加だったら相談件数が載せてあって、4年後のまちと連動するのかといたら、そうでない。

【井口委員】 学校なんかでも、その環境の、減っているんだから、それじゃ、そのためにどうするんだというようなことが1個も入っていない。

【加藤委員】 だから、どう連動させるかというのは指標とも関係してくるので、もうちょっと幾つかのデータを出してもらってそれを選ぶという作業が必要なのかも知れない。

【久会長代理】 ちょっと整理させていただくと、この右側のところの現状と課題を説明しているデータと指標を説明しているデータと、2種類ありますよということ。これをどちらにするのかということ整理しませんかという御提案。あるいは、そういう意味づけはもう余り無視して、何か載せとけばいいという、そういう割り切り方もあるということ。そういうことを言うと、もう写真に置きかえちゃうとか、いろいろ分かりやすさを出す方法はあると思う。

【森岡委員】 事務局としては、関連データというのは、新しく見直したときに差しかえをするのか、それともこのままでいいのか、どう考えているのか。

【事務局】 関連データについては、指標と連動している分については追いかけていくということになるので、一旦作ると4年間はこれでいくので、そうそう差しかえはできないが、関連データについては毎年更新をかけるというのでもいけると思う。ただ、レイアウトの面を考えると、1つは載せておいた方がいいと思う。どの関連データをとってくるかについては、審議会の中で御意見をいただきたい。

ただ、市民の方が見る際は、本編に1つでも表があれば見やすいと思う。

【久会長代理】 どうして分かりやすさという話をしているかということ、私も原稿を書いたり本を書くときに、編集者に必ず何か写真とか図を入れてくださいねと言われる。文章だけでは誰も読みませんよと言われる。そういう意味では、ここに何かビジュアルなものがあった方が分かりやすいかなと思う。

【福島委員】 欲張ったら切りがないので、私個人としては、一委員としてはあった方がいいと思う。それで、ここに何を載せるかといったときに、指標をそのまま持ってくるのはやめた方がいい。あくまでも、現状と課題のバックグラウンドを表す表現ができるような1つの関連データにしたらどうかと思う。

【久会長代理】 その分野を最も特徴的に現状と課題を表現できるグラフを持ってくるということですか。それが指標になっているところもあると思う。

例えばDVがこれだけ増えていますよというのは、それは指標に反映している部分もある。だから、先ほど福島委員が御指摘いただいたように、現状と課題を最もインパクトある説明ができるデータを持っていただくようお願いをしておきたい。

【事務局】 このレイアウトについては、個別の部会になってきたときに、こんなデータよりもほかのデータはないのかとかいう御指摘とかをいただきながら変えていけるのかなと思うので、今の御指摘のような形でも、事務局の方は作成はさせていただく。

【井口委員】 方針は統一はしておきたい。統一しておかないと、このグループはこんな感じで、このグループはこんなんといったらぐあいが悪いので、基本的なことだけは踏まえると。

【久会長代理】 先ほど言ったように、現状と課題を最も分かりやすくインパクトのある説明ができるようなものが望ましいということだと思う。

学生の論文指導をしても、最近は簡単にグラフを作成することができるようになった

ているが、そのときに注意しているのは、これは何を言いたいのかを考えて作りなさいということ。グラフばかり出ているけども、言いたいことがさっぱり分からないグラフというのが増えている。そうならないように、これはこういうことを皆さんに、市民にアピールしたいんだ、社会にアピールしたいんだというデータでグラフを作ってほしい。

【事務局】 とりあえず関連データは1つ載せるということだが、現状と課題を象徴するような関連データのピックアップというのは、この51分野それぞれでここで議論していただく必要も出てくると思うので、なかなかしんどいところがあるかなと思う。もしレイアウトだけの問題で、字ばかりになってしまうということになるようであれば、指標の方を市民の方が見て分かりやすいように図式化して、その指標の元になる関連データを巻末に、3つあれば3つ、2つの場合は2つというふうに持って行って、巻末を参照していただけるように工夫するという方法もある。

【久会長代理】 今のご提案は逆転の発想だと思う。というのは、今、このフォーマットに私たち、固定観念で縛られているが、具体的な事業を見開きの左側に回してしまっ指標欄を大きくすれば、3つのグラフは載るかも知れない。

【事務局】 グラフは今、検証シートで全ての指標をグラフ化していますので、持ってくるのは事務局としては非常にやりやすいと思う。指標自体は、前年5年ぐらいの分を実線でいって、これからの分を目標として掲げると考えている。

【久会長代理】 その方が非常にシンプルだ。我々も、データの引用理由やその的確性についても議論をしなくても済むので、そっちの方がシンプルな内容の議論ができることにもなる。具体的な事業を若干左にずらしていただいて、指標をグラフつきでレイアウトしてもらおうというようなことでよろしいか。

【楠下委員】 この右下の具体的な事業というのは、これは指標としての事業としてあるという意味なのか。4年間の主な取り組みとほとんどダブっていると思うが、具体的な事業として右下に選定した理由というのは、どう考えたらいいのか。

【久会長代理】 これは、主な取り組みが少し抽象度の高い書きぶりなので、具体的にはこういう事業を指していますよというような、そういうのがより分かりやすくということ。目指しますとかなんとかを充実しますというのは、これはどういうことなんだと言われたときに、具体的にはこういう事業をやっているじゃないですかというような意味となる。

【久会長代理】 主な取り組みの中で複数の事業をやっているから、その具体的な事業も主な取り組みの中の主な事業となる。

【事務局】 指標の続きであるというよりは、独立した位置付けと考えている。

【久会長代理】 大体補正点は見えてきたなと思うが、ほかの観点ではいかがでしょうか。

【竹内委員】 後期基本計画の検証の際は、この構成に応じてチェックするというイメージは変わらないのか。この市民の役割分担で、1人でできることと市民2人で、それをまた次、評価の1つの成果として使っていくのかどうかというのは、そこらは余り意識していらっしゃらないのか。

【久会長代理】 先ほどの答申の中にも書いてあると思うが、意識してくださいということ。追っかけられないようなものは余り書かないでくださいということ。

【事務局】 基本的にはそういうことで、ここに書いている分についての進行管理をするということになる。

【久会長代理】 書いたら書いたで、追っかけていくような調査等をやっていたかかないといけないことになる。だから、例えば男女共同参画では、1の1の市民1人でできること、1の1のところ、男は仕事、女は家庭という古い考え方にとらわれないということがあるので、これはちゃんとデータで毎年どれだけ増えているかというのが示せるかどうかというところ。

【事務局】 今、アンケート調査では、市民の役割分担、数が非常に多いので、アンケートのときはどれか1つを抽出して設問にさせていただいている。

【久会長代理】 それと、男女共同参画の方もそうやって追っかけて進捗管理をしているはずなので、そこで分野別計画とこの基本計画が連動してくる。恐らく男女共同参画プランの中でもアクションプラン的なものがあるはずなので、そこをここへ持ってきてもらわないと、何の意味もない。だから、勝手に作るんじゃなくて、ちゃんとそういうそれぞれのマスタープランがあるので、そこで書いてあることをできるだけ援用していただく。さらに、それを進捗管理しているはずだから、データもとっていないと本当はおかしい。それをちゃんと進捗管理しているデータで説明できることを載せてもらおうと、非常に分かりやすくなるし、連動も図れるようになる。

【事務局】 男女共同参画とかそういった計画があるので、そういったものと当然整合性を合わす意味で、同じような内容のものを工夫してくるようにはなると思うし、その進行管理については、男女共同参画の方でとっておられたら、それを持ってくるということになると思うが、毎年とられているかどうかとか、あるいは全てのものについて個別計画

があるかどうかとかになるとちょっとしんどいので、ない部分もあると思う。また、市民等の役割についていろんな項目があったときに、全てについて、これもアンケートということになれば、全ての項目について聞くのはボリュームが多くなるので、その中の代表的なものというふうに今はさせていただいている。

【久会長代理】 なぜそれをちょっと強調させてもらっているかということ、そういう習慣づけが、言いつ放し、やりつ放しということを防いでいくことになる。だから、言ったらやっぱり検証していかなければならないというような習慣づけを、こういうことを機会につけていただくということだと思う。楠下委員は、立場的には環境基本計画のアクションプランを動かすための市民代表としてここに座っていらっしゃるという意味があるので、そういうそれぞれのマスタープランを作ったときに、必ずその市民の役割というのが出てきて、それに対してその市民のアクションプランが作られ、そして市民会議も作られている。それがどれだけ市民の行動を促しているかという進捗管理をして、当たり前の話ではないかなというふうに思う。だから、そこをやっていませんというのは、現状としてはやっていない部分もあるかと思うが、やっていないということを防ぐという、そういう意味合いで少し位置づけをさせていただきたい。

【楠下委員】 今、ちょうど環境基本計画が期間の中間の時期で、見直し作業を今年やっており、当然この総合計画の中と連動して盛り込んでいく必要があるし、今後の計画もこの審議会で議論された内容を踏まえて、調整させてもらいたいと思っている。

【久会長代理】 効果検証は手間をかけてやらないと、見えない部分というのがある。そこを少しおろそかにしてきた部分というのがあるんじゃないかなと思う。

例えば1つ分かりやすく言えば、ある市でこの前、食育フェアの検証が出てきたが、その食育フェアの担当者が追っかけていらっしゃるのは、今年何人来たかという入場者数である。私がちょっと突っ込んだのは、ちょっと待ってくださいと、これ、去年5,000人で今年6,000人やってよかったねとおっしゃるけど、食育フェアというのはその食育の意識づけをするためのフェアでしょうと。その来た人が本当に食育の意識が上がっているかどうかということを追っかけていただかないと、来ましたよというだけで、本当に効果検証しているということになっているんでしょかねというように言わせていただいた。そうすると、やっぱりアンケートをしていかないといけない。そのときに、どうやって効果的、効率的にやっていくか。まさかその来ている人全員にまたダイレクトメールを送ってアンケートをとるということはしなくてもいいけれども、帰り際に今日はということ

が勉強になりましたかとか、来る前と見た後でその意識が高まりましたかぐらいのアンケートはしていただかないと、効果検証になっていないでしょうというようなお話をさせていただいた。実際にはアンケートをやっていなかった。本当に簡単な話だが、そういうことの意識づけをしていただくという意味で、こういうところに載せていってデータをとっていただくというのは必要なことじゃないかなというように思った。

ついでにお話しすると、この前もある会議で行政の方が、イベント用にポスターを3,000部作りますという話が出たが、ある人が3,000部作って何人来てもらいたいと思っているんですかと聞かれた。答えはなかった。3,000部をまきましたで終わっていた。その方がおっしゃるのは、やっぱり客を集めるのが大切であり、ポスターを作るよりもほかの手を使った方が効率的にいくんだったら、そっちの手を使った方がいいんじゃないですかというような御質問だった。そういうことがないように、こういうところでちょっと習慣づけていただくという意味合いだと思う。先ほど御指摘もあったが、全てにわたって検証ができるような形で今回は注意をして書いていただくというように、再度、くどいようだがお願いをしておきたい。

【事務局】 おっしゃっていただいているように、検証できるような形でというのは、進行管理をもう3年ぐらいやってきているので、そういう意識は強く持っている。本日の資料は前回のをそのまま持ってきているので、そのあたりはまた見直したい。

【生川委員】 例えば環境問題、環境分野とかだったら、E評価とかがついた場合に、生駒市だけで改善、見直ししても直る問題じゃないと思うし、そういうのは全国的にやっていかないと直らないと思うが、その辺の関連とか連携というのはどうなっているのか。

【久会長代理】 幾つかの観点があると思うが、その全国的にというのは例えば広域で取り組む、例えば川の汚染なんかは広域で取り組まないといけない、とかそういうことか。

【生川委員】 例えば竜田川だったら斑鳩町とかと連携するとか。

【久会長代理】 あるいは、社会のシステムが変わらないと進められないという全国的なものもあるので、どう課題を分けられるかという問題。

【加藤委員】 国レベルの課題なのか、県レベルの課題なのか、市だけでできる課題なのかということ。

【事務局】 生駒市としては、例えば広域的な問題であれば、隣接の市町村とこうした連携を図りながらやっておりますというような感じにならざるを得ないと思う。あくまでも生駒市が動いて、よそあるいは県あるいは国とかいうことなので、県とか国とかはな

かなか大変かも知れないが、近隣と協力しながら、例えば竜田川をきれいにしますとか、そういう形にはなると思う。

【楠下委員】 竜田川については、斑鳩とか、平群とか斑鳩とか、大和川連携のネットワークがあるので、そういうところと連携してやらないと、生駒市だけでできない。そういうことも含めて取り組み内容に入れていかなければならない。

【久会長代理】 それは検証のレベルで、何が原因でこういう評価になっているのかということを見て、それに対応して次の年の施策に反映していただくという、そういうことになる。もしここでそういうことが重要だと思えば、主な取り組みできちんと広域的な連携を図りますということを書いていただくということで。

【井口委員】 こういう計画というのは、市民としてやっていく必要があるという思いとか、市民がやらなかったら何もならない。だから、市民が本当にやりたくなるような本づくりをすとかいうような、例えばコピーライターを入れるとかデザイナーを入れるとか、いろんなお金もかかるかもしれないが、手づくりでもいいので、そういう見てもらう、そして行動を起こしてもらおうというようなことができるようなものにしたらどうかというように思う。例えば、市の広報というのは非常によくなって、頑としたつかみがあるし、読もうかという感じになっていて、それによってかなりその意識が高くなったんじゃないかなというふうに思う。その点の御留意が必要かと思う。

【久会長代理】 このレベルで何か、フォーマットで工夫はありますか。

【井口委員】 例えばどういう形で本にするかというような、あるいは市民に見せるかというふうにして、何かつかみ言葉をばんと入れるとか。海士町は、つかみ言葉を作って非常にうまいと思った。だから、何かこれはこれとして作って、また市民にPRするときは別のものをやるという方法もあると思うが、お金もかかることなので、いろんな方法で市民のやる気が起こるような形にさせていただきたいと思う。この海士町のは島の幸福論なんていう名前をつけていて、1つの言葉というのか、今はビジュアルの時代なので読もうと思っても読む気力がないとか、読まない。だから、特に若い人へ向けて、イラスト的に表現していくとかいうか、そういうのが必要だと思う。例えば、グラフのかわりに象徴的な写真あるいはイラストを入れる。例えば環境保全活動であれば、ここの太陽光発電システム設置指針というのは、これは別のデータの方に回してしまって、ここに、場所は別にして、ここにそういう写真を載せていくとかイラストを載せていくとかいうことで、心をつかむと。

【久会長代理】 前回と同じように、スペースのあるところには写真、イラストを入れていただくということにしたい。本当はイラストがうまく描ける方がおられたら、イラストの方がおもしろい。見る側に立つと写真は流してしまう傾向がある。

【大野委員】 フォーマットの統一するのであれば、例えばこの職員・行政組織の項目なんかは市民等の役割がないが、ないならないという形でフォーマットとしては入れたらどうか。

【久会長代理】 空欄で。

【大野委員】 だから、その項目はそのまま置いといて、市民1人でできることというのは難しいなと思うし、該当なしとか何でもいいのでそれはそれとして残したらどうか。

【久会長代理】 本当に市民の役割がないのかどうかということもある。職員・行政組織、④の中に市民の役割、ある。それはまた審議会の中で、ないことはないのでは、という話をしてもらいたい。

大きな方向性、枠組みだけしっかりと作らせていただいたら、また微修正は、今後の審議会でも修正もできると思うので、とりあえず今日いただいた御意見に基づいて事務局でフォーマットを再整理していただいて、それぞれの担当部署に返していただいた中で作業を始めていただくということで、よろしいか。

(異議なし)

私からも一言。できるだけ事務局で書かないことというのが、担当の人にしっかりと書いてもらう、それもちゃんと課内で議論して書いてもらうということが重要ななというように思うので、課内でもあの人担当だからあの人に任せといたらいいというような雰囲気を作らないでほしい。

うちの大学のことにもはね返ってくるのだが、報告書を作るのは委員会の役割だという考えの方々がまだまだ多いので。みんなのPDCAですよと言わないと、なかなかかかわっていただけないと思うので、ぜひとも、そういう形で、全職員がこれにかかわっているというような体制づくりをお願いしたい。

本日の案件は終了とする。